

マンガ学のすゝめ

日下, みどり
九州大学比較社会文化研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/16800>

出版情報 : 西日本新聞, 2002-01-25. 西日本新聞社
バージョン :
権利関係 :



世紀を超える感動と涙と勇気がここに…!!
 親子は今、まだ見ぬ父「銀」に会いにゆく
衝撃のベストセラー
新たな銀牙伝説!!
 話題強烈犬ロマン 高橋よしひろ

©日本文芸社・高橋よしひろ

マンガ学 その3

のすゝめ

日下みどり

最近世間マンガや続作マンガが増えている。「キン肉マンII世」はアニメ化され、「シティーハンター」

の続編「エンジェル・ハート」、上海版「北斗の拳」たる「蒼天の拳」も、それぞれヒットしている。

中でも目を引くのが、大

二世マンガ流行の効果

特に次回へ繋げる「引き」の上手さは抜群だ。だが、やはり一番の魅力は、銀とかつての仲間たちが登場することだろう。い

る。特に次回へ繋げる「引き」の上手さは抜群だ。だが、やはり一番の魅力は、銀とかつての仲間たちが登場することだろう。い

親子の絆を深めるか？

日本の家族関係もずいぶん変わったものだ。重要な脇役の狂四郎にいたっては、親の愛を知らずに育ったため大人を信じず、反抗する子犬たちのリーダーになっているという設定。犬の家庭内暴力って何だと言われ

ると少し困るが、これは犬の世界を借りて人間のドラマ(男の生き様、メスはあまり出てこない)を描いているのだ。読者もその辺は分かっているから、問題はないのである。

生まれたいよね」といっても、続編ができれば見に行かずにはいられない。おむね初編がよいと続作も面白いものだ。

▽▽▽

二世マンガ現象は映画でいうと『猿の惑星』のようなものだろう。映画ファンは「なんといっても初編が」

これぞ、新作が生まれにくくなった行き詰まりのあらわれと見る向きもあるだろう。そうかもしれない。

今後は時代の転換期だ。古きもなくなり、新しきものは、しつかりと記憶にイン

プットされている。それを思い出すだけでも読む価値はあるだろう。子供は十年で大人になる。二世マンガは子供にとっては新作、大人の世代には懐かしいキャラクターと出会うダブルで「おいしい」作品なのだ。そしてこの場合、より面白く感じる

ロマンの「ウイード」。「銀牙」(熊犬銀が仲間の犬たちと人食い熊「赤カブト」を倒す物語)の二世マンガである。書店でも平積みとなっていて、関連本も売れている。銀の千ウイードの成長の物語だが、前作を知らない新しい読者も食いつ

きなりあの「スケコマシ」のミス(美男犬だったら名脇役のベン。なつかしいし)が、ウイードたち子犬の前で「大人の責任」を見せて死んでゆく。続作の載せたベンが浪花節を唄いながら歩み去るシーンは圧巻。このあたりを読むだけで、かつてのファンは涙

を流し、痴呆がはじまった名脇役のベン。なつかしい友とも分ならず(哀しい)、ジョンのなきがらを背中に載せたベンが浪花節を唄いながら歩み去るシーンは圧巻。このあたりを読むだけで、かつてのファンは涙

は雄牛役のジョンの死。悪源…だろ。悪源…だろ。

今後は時代の転換期だ。古きもなくなり、新しきものは、しつかりと記憶にイン

プットされている。それを思い出すだけでも読む価値はあるだろう。子供は十年で大人になる。二世マンガは子供にとっては新作、大人の世代には懐かしいキャラクターと出会うダブルで「おいしい」作品なのだ。そしてこの場合、より面白く感じる

は、しつかりと記憶にインプットされている。それを思い出すだけでも読む価値はあるだろう。子供は十年で大人になる。二世マンガは子供にとっては新作、大人の世代には懐かしいキャラクターと出会うダブルで「おいしい」作品なのだ。そしてこの場合、より面白く感じる



親子の断絶、家庭内暴力など、家族の崩壊が描かれている点も時代の変化を反映している。わすかの間に

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽

▽▽▽